

総合的な学習の時間学習指導案

呉市立港町小学校 指導者 富永 浩章

日 時 令和4年10月25日(火) 14時00分～14時45分
学年・学級 第5学年1組 男子19名 女子18名 計37名
単元名 「地域の歴史や思いを受け継ごう」

1 単元について

本単元の目標

- 自分達が過ごしている校舎の歴史や出来事について知り、収集した情報を分類・整理し伝える方法を考えることを通して、小学校の歴史と思いを受け継いでいくために自分達にできることを考えて、課題に対して積極的に関わろうとする態度を育てる。

単元観

- 本単元は、本質的な問い「港町小学校に受け継がれている思いとは何だろう。」を基に、学校の歴史について調べ、建て替えられる校舎に「自分にできること」という視点から自らの課題を設定し、解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体性】を育成することをねらいとしている。

本校の円形校舎は、昭和37年12月3日に竣工され、今年で60年を迎える。ただ、学校の歴史としては古く、明治12年7月2日緯熙舎(シュウキシヤ)まで遡る。

そこで、本単元では、143年間の学校の歴史を自分達で確かめたり、卒業生に思い出を聞いたりすることで得た情報を整理・分析して、建て替えられる校舎に自分達ができることは何かを考え行動するという目的意識をもって探究することができる教材であると言える。

児童観

- 本学級の児童は、9月に行ったアンケートで「円形校舎が自慢だ」と答えた児童は100%、「学校や地域のために自分ができることを考えていきたい」という質問について肯定的な回答をした児童は91%であった。

このことから、建て替えられる校舎について何かしたいと考える児童は多いと考える。

しかし、「答えが出ない課題についてどうするか」という質問については36%の児童が「答えが出ない場合は諦める」と否定的な回答をしており、課題解決に向かう学習を苦手とする児童もおり、探究課題を通して何をすべきか考えさせる必要がある。



指導観

- 指導にあたっては、学校に残っている昔の写真などを見たり卒業生の話を聞いたりして、学校の変化や変遷を読み取り、自分達が過ごす校舎には長い歴史やたくさんの方の思いがあることを感じさせるところから始める。それらを調べていくことで、建て替えられる校舎に自分達ができることは何かを考えさせたい。

単元のゴールとして、資料の写真や賞状などを活用して、港町小学校で過ごした人たちが歴史を振り返る空間を作る活動では、「ふるさと探訪」で見学した「大和ミュージアム」の展示の仕方を想起させ、自分達が案内しなくても、来た人が自分で回って歴史を感じるものを創造させたい。その際、収集した情報を「伝える相手」「滞在時間」「動線」という条件で吟味することで、目的意識、相手意識をもって伝える方法を考えさせながら活動させたい。

この1年間の総合的な学習の時間において学習してきたことを振り返ることを通して、自分たちが受け継いできたものを下学年に受け継ぎ、自分たちの学習が代々受け継がれ、伝統になるということに気付かせていきたい。それらの学習を通して、地域とのつながりを学び、伝統となっていくことを学び、受け継がれていく伝統や思いを大切にしていこうとつなげていきたい。

「両城中学校区授業スタイル」の「学び合う」の場面では、集めた情報をどのように整理・分析したか、根拠をもって意見を出し合うようにさせることで思考力・判断力・表現力を高める。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 港町小学校の歴史について知り、地域の人達にとって大切な場所であることを理解している。 伝えたいことや相手によって表現方法を選択したり、工夫したりして適切に関わっている。 歴史や伝統は自然と続いていくものではなく、先人達のつなげようとする努力があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人達の思いを基に課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。 「港町ミュージアム」をつくるために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人へのインタビューや友達との意見交流において、異なる価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見出そうとしている。 「港町ミュージアム」を成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えの良さを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組もうとしている。 「港町ミュージアム」の開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。

3 指導と評価の計画（全45時間）

次 (時間)	学 習 内 容	評 価	
		評 価 規 準 【観点】	評価方法
一 次 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題の設定 港町小学校にはどんな歴史があったかを調べる。(4時間) ○ 情報の収集 港町小学校で過ごした地域の人や家族にインタビューし、どんな思い出があるか、また、これから建て替えられる校舎についてどう思うか意識調査する。(3時間) ○ 整理・分析 収集した情報や情報から感じたことを他者と協働して整理し共有する。(3時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の歴史について知り、変化や変遷を理解している。 【知・技】 ・地域の人へのインタビューや友達との意見交流において、異なる価値観を受け入れ、尊重しようとしている。【主体性】 ・地域の人達へのインタビューを通して、港町小学校が地域の人達にとって大切な場所であることを理解している。 【知・技】 ・異なる意見を比較して共通点や相違点を見出そうとしている。 【主体性】 ・地域の人達の思いをもとに課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。 【思・判・表】 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット、発言 ・タブレット、行動観察、発言 ・タブレット、発言 ・タブレット、発言、行動観察

<p>二次 (15)</p>	<p>○ 新たな課題の設定 収集した情報や地域の人達の思いから自分たちにできることはないか考える。(2時間)</p> <p>○ 整理・分析① 伝えたいことが伝わるような発表になるよう、友達の意見を基に自分の表現方法について根拠をもって見出す。(4時間) 【本時】</p> <p>○ 整理・分析② 誰もが楽しめるような工夫を考える。(4時間)</p> <p>○ まとめ・表現・振り返り グループごとに制作したものを見せ合い改善点を話し合う。(5時間)</p>	<p>・地域の人達の思いをもとに課題を設定し、解決に向けて自分にできることを具体的に考えている。 【思・判・表】</p> <p>・伝える内容と表現方法について、友達と話し合う中で自分なりの根拠をもって伝え方を見出している。【思・判・表】</p> <p>・「港町ミュージアム」を成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えの良さを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組もうとしている。 【主体性】</p> <p>・伝えたいことや相手によって話し方を変えたり表現を工夫したりして適切に関わっている。 【知・技】</p>	<p>・ワークシート、タブレット、発言</p> <p>・行動観察 タブレット、発言</p> <p>・発言、ワークシート</p> <p>・行動観察、発言</p>
<p>三次 (20)</p>	<p>○ 新たな課題の設定 グループごとに活動を振り返り、改善点や改善案を考える。(2時間)</p> <p>○ 情報の収集 「港町ミュージアム」の地域公開に向け、必要な情報を集め、場所や日時、プログラム等の計画を立てる。(8時間)</p> <p>○ 整理・分析 考えたアイデアが実現可能かどうか検討する。(4時間)</p> <p>○ まとめ・表現・振り返り 「港町ミュージアム」を開催し、その経験から港町小学校の歴史や伝統をこれからもつないでいくために大切なことを考える。(6時間)</p>	<p>・グループで制作物を見せ合い、出た課題の解決に向けて、自分にできることを具体的に考えている。 【主体性】</p> <p>・伝える相手や目的に応じて、自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。 【思・判・表】</p> <p>・決定した日時、プログラム等と照らし合わせて、実現可能か考えている。 【思・判・表】</p> <p>・「港町ミュージアム」の開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 【主体性】</p> <p>・歴史や伝統は自然と続いていくものではなく、先人達のつなげようとする努力があることを理解している。</p> <p>・単元の最初と今の考えを比べて、自分が大切にすべきことを考えている。 【知・技】</p>	<p>・タブレット、ワークシート、発言</p> <p>・タブレット、発言、行動観察</p> <p>・タブレット、ワークシート、発言</p> <p>・行動観察、発言</p> <p>・ワークシート、発言</p>

4 本時の目標

伝えたいことが伝わるような発表になるよう、友達の意見を基に自分の表現方法を根拠をもって見出すことができる。 【思・判・表】

5 評価規準（目指す児童の姿）

A 充分満足できる状況

伝える内容と表現方法について、テーマや「伝える相手」「滞在時間」「動線」などの規準に沿った根拠をもって伝え方を見出している。

B 概ね満足できる

伝える内容と表現方法について、友達と話し合う中で自分なりの根拠をもって伝え方を見出している。

6 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点【思考方法】	評価規準
つかむ	1 前時の学習内容を振り返る。	○自分たちが集めた資料の中で伝えたい内容を確認させる。（校舎の歴史、制服の変化、風景の変化、出来事）	
	2 本時のめあてを確認する。 伝えたい内容を、効果的に伝えるための表現方法を考えよう。		
	3 見通しをもつ。 ・クラスで決めたテーマと規準を確認する。	○表現方法を考える際に、テーマや「伝える相手」「滞在時間」「動線」などの規準を提示することで、根拠をもって考えられるようにする。	
考える	4 個人で考える。 どのようにすれば伝えたい内容が効果的に伝わるのだろう。	○前時まで調べた伝える方法の種類を掲示しておき、その中から根拠をもって選択させる。（クラゲチャート）	伝える内容と表現方法について、友達と話し合う中で自分なりの根拠をもって伝え方を見出している。【思・判・表】（行動観察、タブレット、発言）
	5 グループトークを行う。 伝えたい内容が効果的に伝わるよりよい方法を考えよう。	○小グループ毎に、司会者が話合いのポイントに沿って進め、一人一人の意見を出し合った後、精選させる。（クラゲチャート） ○話合いが停滞する場合には、教師がグループトークに入る。	
	6 グループ間で交流する。 ・他グループの発表を聞いて、疑問に思ったことや改善点を出す。	○表現方法を考えた根拠を明確にすることができるよう、必要に応じて声をかける。 ○質問や問題点、良い点を出し、共通点を整理し、課題解決につなげる。	
まとめる	7 学習を振り返り、交流する。	○テーマや伝えたいことに合った表現方法を考えることができたか、自分の言葉でまとめるよう助言する。	
	8 次時の課題を考える。	○たくさんの人に伝えるにはどんな工夫が必要だろう。（年齢層、コロナ禍）	